津波のぎせい者を0(ゼロ)に!!

未来を生きる 私たちの課題

こども会議 防災新聞

二木津波ひなんビル。今年1月完成。屋上9.9mの高さ

〈こんな工夫を発見☆〉

①寒さや風雨から身を守る屋内スペース。
②太陽光発電で電気をかく保。停電でも大丈夫。
③誰もが登りやすいスロープ。高さが分かる色分けも。

3月29日、防災・減災の未来について考える「こども会議」が開かれた。見学した仙台市内のひ災地では、津波から命を守る様々な施設が、少しずつでき始めていた。

小学5年生
鈴木心晴

命を守るひなんビル

ひ災地にできた津波ひなんビルを見学した。

先の津波の高さより4㍍以上高い6.6㍍の場所に、ひなんできる部屋があり、食料やストーブ、毛布などが十分用意されていた。

大津波のときも、ここまで来れば助かるにちがいない。

津波の怖さ伝えよう

東北大学では、震災の記録を保存し、未来に生かす大切さを学んだ。これも減災に必要だと感じた。

私が考える ぎせい者(ゼロ)への道

様々な施設ができ、正しく逃げれば助かる可能性がふえた。

その一方で、体の不自由な人など、自力で逃げられない人のことを忘れてはならないと思った。

そこで、「救助マップ」の作成を提案する。あらかじめ援助の必要な人を調べ、助ける計画をたてておけば、ぎせい者ゼロにぐっと近づくはずだ。